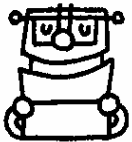


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

関東ローム層^{そう}って、特別な地層^{ちそう}なの



関東地方で広く見られる赤土の層のことで、そのほとんどが、火山灰^{かざんばい}が積み重なってできているのさ。

関東地方は火山に囲まれ、火山灰のあつい地層におおわれている

火山のふん火でふき上げられた火山灰は、風で遠くまで散らばります。関東地方は、たくさんの火山に囲まれているため、あちこちの火山がふん火するたびに、大量の火山灰がふり積もり、火山灰の地層である関東ローム層ができたのです。

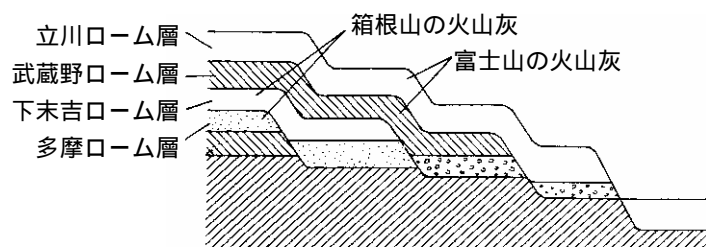
北関東地方なら、浅間山、赤城山、男体山などのふん火で、南関東地方なら、富士山、箱根山などのふん火で出た火山灰が、ふり積もっています。

関東ローム層は、長い間に、火山灰が日光や雨風のはたらきでねん土質のものに変化していて、中にふくまれていた鉄が酸化されたため赤い色をしています。ロームとは、砂^{すな}が3分の1混じったねん土質の土のことです。

南関東地方の関東ローム層の上層は、富士山の火山灰

図のように、ふん火のたびにふり積もった火山灰の層には、それぞれ名前がつけられていて、下にいくほど古い層です。立川ローム層、武蔵野ローム層^{むさしの}は、約6万年～1万年前までの間に数百回もあった、富士山の大ふん火でふり積もった火山灰でできたということがわかっています。下末吉ローム層^{しもすえよし}は、箱根山^{はこね}の火山灰です。

中央区^{ちゅうおうく}、台東区^{たいとうく}、江東区^{こうとうく}、
足立区^{あだちく}、葛飾区^{かつしかく}などのように、
荒川^{あらかわ}などの水のはたらきで地層ができたところ以外は、関東地方のほとんどが、関東ローム層でおおわれています。



南関東地方の関東ローム層